



ピースボート災害支援センター(PBV)

2020年度 活動報告

2020.4.1—2021.3.31



CLIMATE CRISIS

わたしたちは、気づきはじめています。
この地球がいよいよ限界に近づいてきていることを。
毎年、大気や海水の温度は上がり、
台風や豪雨の激しさは増えています。
世界中で、自然災害が増え続け激甚化しています。
国連によると2000年から2019年の20年間で、
世界では7,348件の災害が記録され、
亡くなった方は123万人、
世界の経済損失は2.97兆ドルにもなります。※
ひとたび大規模災害が起これば、
わたしたちの生活や街の機能は破壊され、
社会にあった脆弱さを露呈します。
住まいや仕事を失えば、生活が困窮し
食事や水、トイレが整わない避難生活は、
健康にも被害をおよぼします。
子どもや女性、外国人、障がい者など
マイノリティへの影響は計り知れません。
災害対応は、全ての人に共通する
グローバルでローカルな最重要課題です。

※「The human cost of disasters:
an overview of the last 20 years (2000-2019)」UNDRR

CONTENTS

P6

国内外の災害支援

災害に見舞われた地域の回復のために、多様な支援者と共に、被災者のニーズに合わせた支援活動を展開しています。

P13

東北への支援

東日本大震災以降、長期にわたり継続的な支援活動を実施。地域課題に取り組むパートナー団体も応援しています。

P14

防災・減災への取り組み

災害に強い社会を創るため、支援人材の育成や防災教育、ネットワークの構築をおこなっています。

Prosperity

豊かさ

すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにし、
自然と調和する経済、社会、技術の発展を確保する。



Planet

地球

責任ある消費と生産、資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応を通して、地球を破壊から守る。



People

人間

すべての人に人権が尊重され、尊厳をもち、平等に能力を発揮できるようにし、貧困を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、教育、水、衛生、健康な生活を実現する。



Cause

【課題】

市民が助け合わなければ、
もはや災害には立向えない。

Peace

平和

平和で、公正で、恐怖と暴力のないインクルーシブな世界を目指す。



Partnership

パートナーシップ

政府や民間セクター、市民社会、国際機関を含む多様な関係者が参加する、パートナーシップにより目標の実現を目指す。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

災害対応や予防、被害の軽減は、
国連『持続可能な開発目標 (SDGs)』
全ての目標に関係します。

no one will be left behind

VISION

人こそが
人を支援できる
ということ

ピースボート災害支援センターは、被災地での災害支援活動や災害に強い社会作りに取り組む非営利団体です。誰もが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々が互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

MISSION

「お互いさま」を
共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、時に私たちを被災者にし、時に私たちを支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして少し遠くの「あの人」を支えます。私たちは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に“役に立つカタチ”にします。

IMPACT

33ヶ国(海外)

62地域(国内)

これまでに支援した延べ被災地数
1995年以降の国際NGOピースボートの災害支援を含む

108,237人

共に活動したボランティアの延べ人数

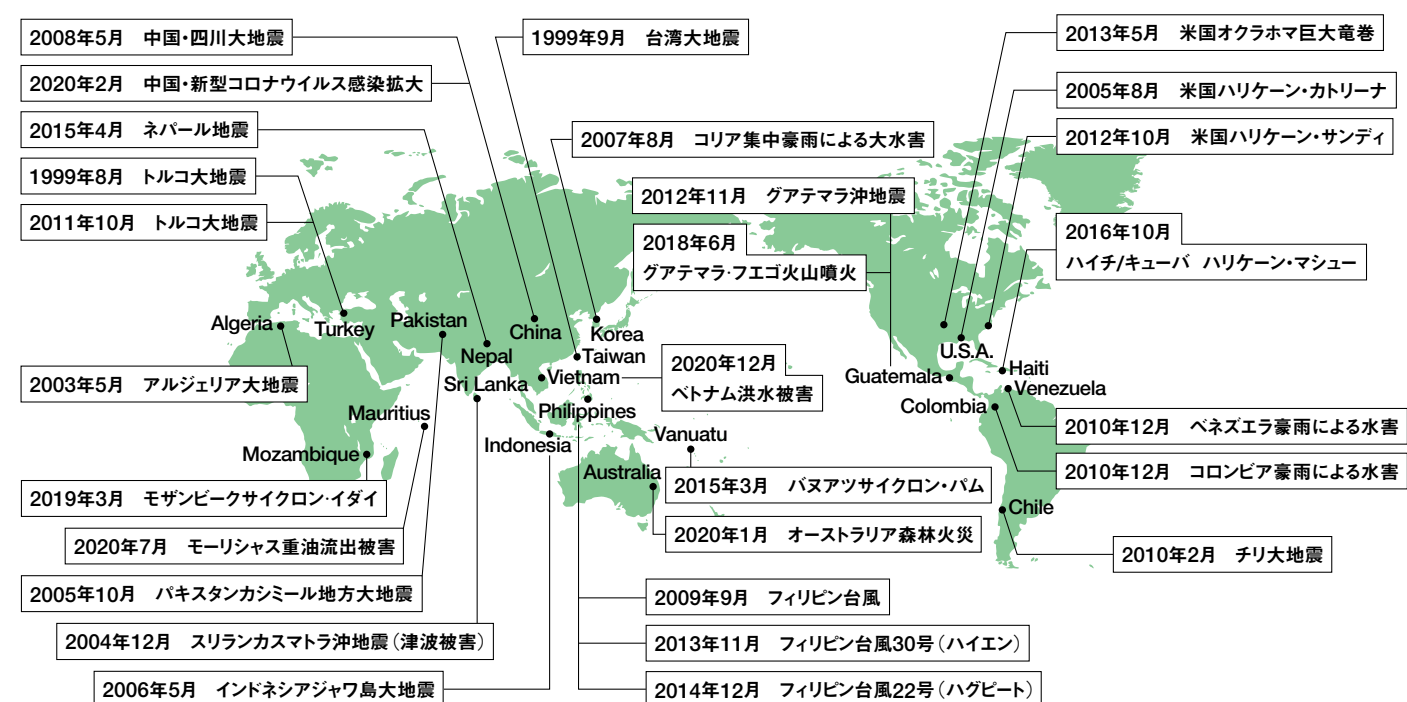
8,391人

災害ボランティアトレーニング修了者



ピースボートの主な災害支援 ※2021年3月現在

海外



ピースボートの主な災害支援 ※2021年3月現在

国内



その地域の人たちには、回復力がある

困難な状況にあったとしても、適切なサポートがあれば、未来に向かう一歩を踏み出せます。
ひとつとして、同じ災害はありません。
そして、ひとつとして同じ支援のカタチ也没有ありません。
その時、その場所、その人たちに必要な支援を。

PREPARATION

災害ボランティア事前登録
災害ボランティアトレーニング
災害支援ネットワーク構築



ASSESSMENT



COORDINATION

災害ボランティアおよび
専門スタッフの派遣
企業・団体の
強みを活かした協働・連携
支援の基盤を支える
寄付者と後方支援

SOLUTION

物資支援
食事支援(炊き出し)
避難所運営サポート
在宅・車中・指定外避難所等
避難生活支援
災害ボランティアセンター
運営サポート
家屋清掃
家屋の応急対応
(床・壁への対応、屋根への防水シート張り等)
家屋保全講習
写真洗浄
支援団体間調整・
連携サポート
コミュニティ形成サポート
仮設住宅支援
地域産業支援
行政支援



熊本支援

2020年7月豪雨

初めて直面したコロナ禍の自然災害
命や尊厳、生活を大切にする支援を止めないために

2020年、世界中に新型コロナウイルス感染症が広がるなか、懸念していた自然災害が発生し、これまでに経験したことがない複合災害となりました。7月3日～8月にかけて、九州や中部地方を中心に全国各地で記録的な集中豪雨が発生しました。7県で大雨特別警報が発令され、全国で39県にも及ぶ広域災害となり、川の氾濫や浸水被害、土砂災害などにより人的・物的被害が多く発生しました。住家被害は16,599棟にものぼり、84名もの尊い命が奪われました。

活動期間

2020年7月13日—継続中

活動場所

熊本県 球磨村、人吉市、芦北町、八代市、津奈木町、山江村

大分県 日田市、由布市、九重町

福岡県 久留米市、大牟田市

活動人数

日別延べ活動人数

1,262人(23人派遣)

新型コロナウイルス感染症への対応は専門家のアドバイスのもと、罹患を予防し、社会的な感染拡大を防ぐと共に、支援活動を実施することができました。

(専門家アドバイザー)

笠岡(坪山) 宣代氏(医薬基盤・健康・栄養研究所 国際災害栄養研究室 室長)

尾島 俊之氏(浜松医科大学健康社会医学講座 教授)

高橋 知子氏(愛知医科大学病院 感染症看護専門看護師)

原田 奈穂子氏(宮崎大学医学部看護学科 統合臨床看護科学講座 精神看護学領域 教授)

コロナ禍でも活かされた避難所運営経験



熊本県 球磨村長
松谷 浩一さん

令和2年7月豪雨災害は本村にとって未曾有の大災害となりました。そしてコロナ禍により、前例のない避難所運営を余儀なくされました。そのような中で、専門的な知識を有する人材が不足しておりましたので、熊本県との調整により、PBVをはじめとするNPOの皆様へ駆けつけていただきました。

PBVはこれまでの避難所運営経験を活かされ、被災者に寄り添った支援を行っていただくとともに、新型コロナウイルス感染防止に対し、関係機関と連携し対応していただきました。お陰様で本村が開設した避難所からは陽性者が一人もでませんでした。心から深く感謝申し上げます。復興には長い時間がかかりますが、NPOやボランティアの方々のご支援、ご協力に感謝しながら一歩ずつ前に進んでまいります。

『新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック』(JVOAD避難生活改善に関する専門委員会)

新型コロナの感染拡大が懸念された当初からPBVが執筆・編集に関わる『新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック』は、改定を重ね第4版(2021年5月26日)の発行を迎えました。第3版以降、PBVが運営支援に入った熊本県球磨村の村外避難所で直面した課題や葛藤、それらに対する解決策や工夫が詰まった事例集「2020年7月豪雨災害 コロナ禍における避難所運営工夫事例10選」も収録されています。



SOLUTION [実現したこと]

1 地元団体を支援

発災直後より、これまで培ってきたネットワークを活かし、熊本県と大分県、福岡県で活動する地元団体を通じて物資提供を行いました。企業・団体からの協力を得て、感染予防のためのマスク・手指消毒液などの備品や、水害対応時に使用する送風機や高圧洗浄機などの資機材を届けました。また、オンラインツールを活用し現地で活動する団体に対して床下清掃の講習会などを実施しました。

IMPACT

6つの地元団体の活動を支援
講習会の視聴参加者は累計**461**名



2 避難生活を支える

熊本県と球磨村、熊本YMCAから要請を受け、新型コロナ対策を徹底し感染防止のため入れ替わりなしでスタッフ15名を派遣しました。8月上旬から避難所の閉所まで約3か月常駐し、避難所運営支援を行いました。配慮や慎重さが求められる感染予防と避難生活の両立は難しい側面もありましたが、主体的に携わってくれる住民と共に、尊厳のある安心した生活を送れるように取り組みました。

IMPACT

熊本県球磨村の村外避難所(旧多良木高等学校避難所)
93世帯**167**名の避難生活を支えました。



3 災害VCの運営をサポート

新型コロナの感染拡大に伴い県をまたぐ移動が制限され、全国からボランティアが被災地に駆けつけて支援活動を実施することが困難な状況となりました。被災者の生活再建を支える拠点となる災害ボランティアセンター(災害VC)をサポートするため、12月上旬よりスタッフ2名を派遣しました。社会福祉協議会や行政、NPOと連携しながら、人吉市災害VCを約4か月間支え、被災家屋の清掃・片付けを行いました。

IMPACT

災害VCの体制構築と新型コロナ対策をサポート
62件の課題に対応

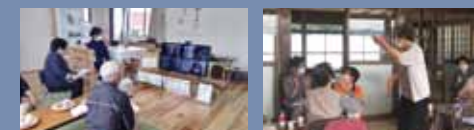


4 コミュニティを支える

公民館・集会所への備品提供と、地域住民や自治会、NPO、ボランティアと共に被災した公民館・集会所の仮復旧を行っています。集える場を整え、地域活動の再開や今後の地域づくりの話し合いの開催など、地域コミュニティの再生へ繋がります。また、コロナ禍での新たな工夫として、オンラインを活用した音楽イベントや先進地の被災経験者との対話企画といった、住民の団らんの機会をつくっています。

IMPACT

熊本県、大分県の**8**市町村の公民館と
仮設団地集会所へ備品提供を実施
公民館**43**か所 仮設団地集会所**22**か所



2019年 台風15・19号 (令和元年東日本台風)

2019年9月から10月にかけて襲来した台風15号・19号の被災地支援を継続しています。2年余り経った現在も、千葉県の上房総地域や福島県の2地域で支援活動が続けてきました。

千葉支援



屋根補修のサポート

台風によって屋根が破損しブルーシートなどで仮補修した場合、使用されたシートや工法によっては劣化していきます。そのため家屋へのシート展張や屋根補修のニーズが多く寄せられており、千葉駐在のスタッフが日々住民のニーズに応え続けています。

地域の担い手育成

新型コロナの影響もあり地域の力で災害を乗り越えることが一層求められています。屋根補修などの知識や技術が必要とされる復旧作業を地域で行えるように、行政や社会福祉協議会、地元の消防署や消防団、支援団体と協力しながら講習会を開催し、これまでの知見・ノウハウを伝える活動に尽力しています。

活動期間

2019年9月10日—継続中

活動場所

千葉県袖ヶ浦、鋸南町、館山市、
鴨川市、南房総市、木更津市、
君津市、富津市

活動人数

日別延べ活動人数

1,952人(27人派遣)

完了件数**149**件(2019年10月～2021年3月まで)

福島支援

地域コミュニティの再建を支える

被災してしまった地域の公民館・集会所へ、災害によって使用できなくなってしまった備品、フェンスや電灯などの屋外工事、新型コロナウイルス対策用の衛生用品の提供支援を実施しました。普段からの地域の繋がりを維持することは、長い年月のかかる復旧・復興において非常に重要です。引き続き地域活動の再開を後押ししていきます。

活動期間

2019年10月13日—継続中

活動場所

福島県いわき市、相馬市

活動人数

日別延べ活動人数

2,226人(186人派遣)

6つの公民館に、要望のあった**1,114**点の備品を寄贈した

福島県沖地震

宮城・福島支援



屋根補修ノウハウで他団体と連携

山元町社会福祉協議会(宮城県)からの要請を受け、台風15・19号で被災した千葉県での支援ノウハウを活かして、地震の被害を受けた屋根への防水シートを張る活動を行いました。

2021年2月13日に発生した福島県沖を震源とする最大震度6強の地震被害へ対し、現地へ支援チームを派遣しました。この地震では、福島県や宮城県を中心に、9,137棟の住家に被害をもたらしました。

活動期間

2021年3月7日—継続中

活動場所

宮城県山元町、福島県新地町

活動人数

日別延べ活動人数

42人(2人派遣) 完了件数**6**件(2021年3月まで)

『被災家屋への対応事例～屋根の対処編～』(JVOAD技術系専門委員会)

2021年3月に、PBVが執筆・編集に携わった『被災家屋への対応事例～屋根の対処編～』が発行されました。被災した屋根への補修活動を実施する10団体への聞き取りをもとに、被害状況や作業時間、耐久期間などを分類した12種類の工法などがまとめられています。



西日本豪雨

岡山支援



2018年7月に発生した西日本豪雨の被災地支援を継続してきました。復興へとフェーズが移りゆく中、潜在的にあった課題の顕在化やニーズが多様化するなかで、地域を支える息の長い活動を続けています。

地域コミュニティの再建を支える

発災から約3年が経ち、災害復興住宅への転居など地域に戻ってくる方々も増えてきました。地区の集会や談話の場となる公民分館を活用しやすいように、被災により水没してしまった備品を新たに提供し、住民が再会してコミュニケーションを取れる場づくりをサポートしました。

安心して暮らせる地域づくり

地域のまちづくり推進協議会や社会福祉協議会、地元NPOと今後の災害対応への協議を重ね防災・減災教育の研修を実施しました。研修を通じた次への備えや対策を住民同士で話し合う場を作りました。また、災害時に地元で活動する自治体や社協、NPO、企業などが円滑に協働するための組織連携研修などを設けました。

活動期間

2018年7月9日—継続中

活動場所

岡山県倉敷市、総社市

活動人数

日別延べ活動人数

6,424人(480人派遣)



活動期間
2020年8月31日—継続中
活動場所
モーリシャス共和国

モーリシャス重油流出被害

7月下旬、日本企業の所有・運行する貨物船がモーリシャス沖で座礁し、1,000トンの重油がサンゴの海に流出する事故が発生しました。

現地パートナーを通じた取組みを支援

モーリシャスの人々にとって、自然は重要な漁業の場であると同時に観光資源です。重油流出の一報を受け、現地ではボランティアやNGO、モーリシャス政府、海外の緊急支援チームなどが協力して、重油の回収作業を進めました。PBVでは緊急支援募金と呼びかけ、8000名以上の方々からご寄付のご協力をいただきました。皆様からお寄せいただいたご寄付は、現地パートナー団体の緊急支援活動および長期的な生活再建事業を支えています。

現地パートナー団体「モーリシャス環境保護・保全機構(EPCO)」

EPCOは環境保護、貧困対策、女性のエンパワメントなどの社会課題に取り組む団体です。今回の事故と観光客の激減により収入源を失った沿岸部コミュニティを支援するため、PBVの協力のもと、小規模農業など代替的な収入確保に向けた事業を実施しています。

現地パートナー団体「モーリシャス野生生物基金(MWF)」

MWFは野生動植物の保護やエコツアー、環境教育などを実施している環境保全NGOです。今回の事故を受け、重油流出が確認された初日から、重油の除去作業、重油を吸着したオイルフェンスの回収、希少生物の移送などの活動に従事しました。

被災経験を次に起こる有事へ備える力に



Environmental Protection & Conservation Organisation
(EPCO:モーリシャス環境保護・保全機構)
副代表・プロジェクトリーダー
Daksh Beeharry Panrayさん

このプロジェクトには長期間の支援が必要になると分かっていたので、PBVから初めて連絡を受けた時、私たちはホッと安心しました。貨物船わかしおの事故は、モーリシャスの人々にとって前例のない災害でした。しかし、近年の周辺海域での船舶交通量の増加を考えると、同様の事故は今後も発生する恐れがあります。今回の危機は、海外の専門家や技術の支援によって乗り越えることができました。しかし、将来同様の問題が発生した場合に備えて、専門家の育成など、私たち自身の災害対応能力の向上が必要とされています。日本の人々が経験した過去の災害からも学ぶことができるでしょう。PBVと協働するのは今回が初めてでしたが、実施中のプロジェクト以外にも、また協力できる分野があると確信しています。

ベトナム中部集中豪雨・台風被害

10月初めからの集中豪雨と立て続けに上陸した7つの台風によって、ベトナム中部を中心に洪水や土砂崩れなどの甚大な被害が発生しました。生活再建に中長期的な支援が必要になることを鑑みて、PBVは緊急支援募金を立ち上げました。発災直後より被災地で支援活動を実施していた「ダナン市青年同盟」を通じて、浸水被害に遭ったダナン市内の2つの地区の200世帯に食料パッケージを届けました。



※各被災地での詳しい活動報告書は、HPからご覧いただけます。



石巻・女川&東京 LIVE配信イベントを開催

3月13日にLIVE配信イベント「東日本大震災から10年 私たちの石巻にいた時間『いま、だれに会いたいですか?』」を開催しました。石巻に根を下ろし暮している元ボランティアメンバーが、石巻と女川の各地を中継し、お世話になった沢山の地元の方々と一緒に当時を振り返りながら、10年が経った現在の様子や想いを届けました。YouTubeとFacebookでのオンライン配信で約2,000回の視聴がありました。また、LIVE配信中には、当時ボランティア活動に参加した方など日本各地や海外から沢山のメッセージが届けられ、懐かしい仲間達との会話に花が咲き、とても温かい4時間となりました。



クラウドファンディングに挑戦しました

2月下旬から3月末にかけて、PBVが初めて実施したクラウドファンディング「コロナ禍でも被災者を支えたい! #1人の100歩より100人の1歩」が、総勢446人の多様な応援者の方々から、惜しみのないご協力のおかげで最終日に無事に目標を達成しました。目標500万円のところ総額5,215,000円のご支援を頂いた事に加え、普段あまり伝えられていない被災地の現状や課題、被災地の方たちの声、支援者の取り組みなどを、多くの方に広く伝えることもできました。今回の446人による一歩が、今後1千人、1万人、1億人の一歩となって、自然災害がもたらす困難に立ち向かう力になると信じています。プロジェクト中に届いた励ましのお声を大切にこれからも活動に尽力していきます。



【PBV10周年】「お互いさま」を共に歩む
クラウドファンディング実施に際し、プロボノで映像制作にご協力いただきました。
<https://youtu.be/mcukMHsEHDE> 映像制作協力:竹之内啓介

一般社団法人 ほやほや学会

震災から10年。宮城県石巻での緊急・災害支援以来、地域との関わりは、地域産品である「ほや」の認知度向上や販路拡大を主として、東北の地域振興を応援するかたちで続いています。コロナ禍でお土産市場での販売数が激減したり、飲食店が危機に直面したりと、厳しい状況が続いています。生産地・飲食店、そして皆さんを繋げていく活動を通じて東北をサポートしていきます。



ほやほや学会YouTube
チャンネル名:hoya gakkai
ほやの認知度向上と一緒に取り組んでいる飲食店を中心にレポートするシリーズ「ほやのある店」を始め、美味しいほやの食べ方などを動画で紹介しています。



ほやのオンラインショップ「ほ屋」NEW!
東北の様々な加工会社によるほや商品を紹介しています。「地域別の食べくらべ商品」等ほやファン垂涎物の商品をはじめ、可愛いほやグッズも購入できます。
<https://hoya-hoya.stores.jp/>

過去の災害に学び、未来をつなぐ

お互いの命や生活を守るため、防災・減災を学ぶ機会を提供します。
そして、有益な支援活動が実現できるよう
多様なセクターが連携し協働できるネットワークを構築します。



次への備え

家族と地域を守る

- わが家の災害対応ワークショップ
- 支援を活かす地域力ワークショップ

知見と経験を全国へつなぐ

- 災害ボランティアセンター運営研修
- マッチングシミュレーションゲーム

命、生活、尊厳を守る

- 避難所の運営研修
- 避難生活想定ゲーム

支援の担い手を育成

- 災害ボランティアトレーニング（入門・リーダー・スキルアップ）
- ブルーシート展張 現場講習会

支援をつなぐネットワーク

- 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）など18のネットワーク組織に参画しています。

日本の経験を世界へ

- 第3回国連防災世界会議in仙台
- 防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）
- “Making Cities Resilient” 災害に強い都市の構築キャンペーン（国連公式パートナー）

社会貢献をつなぐ備え

- 社会貢献×防災グッズ Safety bank

プログラム名	受講者数	実施回数
災害ボランティア入門	197人	3回
災害VC運営研修	503人	14回
わが家の災害対応ワークショップ	81人	5回
支援を活かす地域力ワークショップ	41人	1回

プログラム名	受講者数	実施回数
避難所運営研修	425人	9回
講演・イベント	2,185人	42回
合計	3,432人	74回

(2020年度)

実践知を活かした研修事業



研修・講演に関するWEBページをリニューアル 多様な課題・悩みに寄り添いともに解決したい

平時から災害に備えておく手段は沢山あります。個人でできる事はもちろん、組織や地域でできる取り組みなど様々な方法があります。災害の種類によっても対応は異なり、それぞれの地域の特性や抱えている課題も実に多様です。PBVでは、災害につよい社会づくりを共に進めるために、全国各地の組織・団体の方々に寄り添ながら、課題解決を模索する参加型研修を数多く実施しています。WEBページのリニューアルに伴い、これまで研修依頼をいただいた組織・団体からフィードバックをもらい、プログラムを通した気付きや効果などのインタビューを掲載しました。また、これから災害対策に関する学びの機会をつくりたいと考える方に向けた、課題整理のためのマッピングチャートなどを新設しました。これからも、多様な立場の方の目線にいつそう寄り添った学びの機会を提供していきます。

コロナ禍を乗り越える「地域の力」を養う 感染症対策を踏まえた避難所運営のノウハウ提供

避難所には多くの人が密集するため、感染症のリスクも高まります。近年の災害激甚化にともない、長期化する避難生活に備えて、新型コロナウイルスを含む感染症対策をふまえた避難所運営は、急務の課題として各地に求められています。

PBVは、2020年7月豪雨でコロナ禍における避難所運営を行った全国でも数少ない支援団体のひとつです。これまで長年培ってきた避難所運営の経験とノウハウに加えて、コロナ禍の感染症対策も伝えるために、数多くの講演・研修を実施してきました。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、避難者の命・生活・尊厳を守るための避難所運営を学ぶ機会を全国各地でつくり、移動制限などで支援の手が滞りやすい困難な状況を乗り越える地域の力を高める後押しをしています。

災害VCマッチングシミュレーションゲームのキット販売開始!

PBVのこれまでの支援経験をもとに、社会福祉協議会の職員をはじめ地域の皆さんにとって支援拠点となる災害ボランティアセンター運営を楽しみながら真剣に学べるキットです。災害VC設置訓練前のイメージトレーニングにもおすすめです。大規模な訓練の実施が難しい中、少人数からでもできるゲームで備えてみませんか。



<https://pbv.or.jp/msg/>

好評発売中!

SUPPORTERS

UDN SPORTS



セレッソ大阪
清武 弘嗣さん

2020年7月豪雨では、自分の故郷である大分ははじめとして九州全域に多大な被害が出たことを受けて、UDN SPORTSに所属するアスリートで九州に縁のある選手12名と共にクラウドファンディングを実施させていただきました。PBVさんを通じて、自分たちが現場に行けない代わりに避難所の運営や、支援物資の寄付等を行っていただいたことには非常に感謝しております。自分たちアスリートが社会のためにできることは限られているかもしれませんが、こうしてPBVさんと協力しあって活動することで、1人のアスリートとしてできることの幅も広がっていくと思います。故郷大分の応援していただいているファンの皆さんに少しでもサッカーを通して勇気を与えられるように、より一層競技に集中していきたいと思っています。



国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
国際災害栄養研究室 室長
笠岡(坪山) 宣代さん

「食」は生きるための源です。私たち国際災害栄養研究室は、世界でもはじめての災害と栄養の専門部署です。この10年間で、たくさんの食支援が進みましたが、被災地ではまだまだガマンをする場面があります。特に、食・栄養は後回しにされることが多く、なかなか改善できませんでした。しかし、2020年熊本県等の水害ではPBVの皆様とコラボ支援ができ、大きな一歩となりました! PBVの滞在する避難所と遠隔地をWebでつなぎ、現場の生の声をリアルタイムで聞くことができ、すぐに改善策ができました。特に、コロナ禍でむずかしかった「炊き出しの衛生管理ツールづくり」、「お弁当の栄養面を考慮した提案」、「感染対策をしつつ皆で食べる食堂」等、避難されている方が笑顔で食事を楽しめる食環境ができあがりました。助かった命をつなぐだけでなく、さらに健康に生活することを実現されています。これからもPBVの寄り添う支援と一緒に発展させていきたいです。

委託事業

2020年7月豪雨 球磨村旧多良木高校避難所運営支援スタッフ派遣[公益財団法人熊本YMCA] ※避難所運営
2020年7月豪雨 救済と災害ボランティア活動の調整事業に係る業務委託[人吉市] ※災害ボランティアセンター運営

加盟団体・ネットワーク

国連防災機関(UNDRR) Making Cities Resilient: My City is Getting Ready / Global Network of civil society organisations for Disaster Reduction (GNDR) / ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国際協力NGOセンター(JANIC) / NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS) / 支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク(JQAN) / 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) / 日本NPOセンター(JNPOC) / 国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) / 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) / 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな) / 防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR) / 民間防災および被災地支援ネットワーク(CVN) / みんなの炊き出し研究所 / 緊急災害対応アライアンス SEMA / 東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議 / 女性防災ネットワーク・東京(GDN-T) / 新宿NPOネットワーク協議会 / おおさか災害支援ネットワーク(OSN)

メディアでの紹介

[テレビ] NHK「週刊まるわかりニュース」/ NHK 福島
[新聞] 朝日新聞 / 読売新聞 / 毎日新聞 / 山形新聞 / 上毛新聞 / 京都新聞 / 日本海新聞 / 大分合同新聞
[雑誌・書籍] 「東日本大震災から10年を迎えて」(生団連) / 「災害廃棄物に関して民間支援が現場で取り組んでいること」(災害廃棄物プラットフォーム) / AERA・2020年8月3日号 / 日経トレンディ・2020年8月号 / のんびる5・6月号 / Jレスキュー・2021年2月号 / 「2020年7月豪雨災害 コロナ禍における避難運営工夫事例10選」(JVOAD避難生活改善に関する専門委員会 / 執筆: PBV) / 「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」(JVOAD避難生活改善に関する専門委員会) / 「被災家屋への対応事例～屋根の対処編～」(JVOAD技術系専門委員会 / 主管: PBV) / 「English version of "Disaster Response Guidelines for volunteers and NPO during the COVID-19 pandemic (新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン)」(JVOAD / 英訳: PBV)
[ラジオ] NHKラジオ「Nらじ」×2回 / TBSラジオ「ACTION」/ J-WAVE「HEART TO HEART」/ TOKYO FM「Hand in Hand」/ 福井ラジオ / Vol Radio (チリ)
[ネットメディア] Choose Life Project×2回 / J-castニュース

研修・講演のご依頼 好評受付中!

オンライン開催も
増えています

避難所運営や災害ボランティアセンター(災害VC)運営、家屋保全などの各種災害対応の方法に加えて、マニュアルにはない現場の課題や葛藤、対応策や工夫を踏まえたノウハウと事例の提供しています。新型コロナの感染拡大防止の観点から、参加者全員オンライン、講師のみオンラインなど実施方法も参加者層に合わせた形式で開催しています。



「防災・減災教育プログラム」に関して、詳しくはPBVウェブページをご覧ください。
<https://pbv.or.jp/seminar/>

ご支援・ご協力いただいた企業・団体の皆さま(団体名は略称表記)

ご寄付や物資提供、イベントのご協力など、個人の方からたくさんのご協力をいただきました。お一人おひとりの皆さまに心より感謝申し上げます。

助成金のご協力



ジャパン・プラットフォーム (JPF)



震災がつなぐ全国ネットワーク (震つな)



信頼資本財団



中央共同募金会



日本財団



パルシステム生活協同組合連合会



Center for disaster philanthropy (CDP)

支援活動へのご協力



イシノマキにいた時間



真如苑



UDN SPORTS 電鉄通商株式会社

愛・知・人／アキモ酒店／アレグリアみちのく復興支援プロジェクト／石巻市社会福祉協議会／医薬基盤・健康・栄養研究所 国際災害栄養研究室／エシカルソリューションファクトリー／オカムラ／岡山県立岡山大安寺中等教育学校／オペレーション・プレッシング・ジャパン／カーシェアリング協会／風組関東／カタリバ／川越市立高階中学校生徒会／くすりのフレンド宮若店／熊本支援チーム／クラダシ／クラフト／グリーンピース ジャパン／ケートリック／味の素ファンデーション (TAF)／コスモスバス／小鳥の森ゴルフパーク／コミサボひろしま／災害NGO結／災害エキスパートファーム DEF／災害支援団体 Revive／賛育会／三線がーる稲嶺幸乃／静岡県ボランティア協会／資生堂／品川区社会福祉協議会／ジャパングレイス／集結／浄園寺／昭念寺／情報支援レスキュー隊 IT DART／シルミルのむら／震災がつなぐ全国ネットワーク／真如苑／スタディライフ熊本／スマートサプライ／全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)／全国社会福祉協議会／ソーシャルアクションカンパニー／ソー写ルグッド／ソナエトコ／ソフトバンク／東京海上日動および社員有志一同／ナオト・インテライミ／長崎県／名古屋女子大学 家政学部食物栄養学科3年生 給食経営管理応用実習生一同／なごや防災ボラネット／にいがた災害ボランティアネットワーク／ニセコ町／日本IBM／日本財団／日本たばこ産業 (JT)／日本YMCA同盟／はままつ子育てネットワークびっぴ／パルシステム福島／ピースウィンズジャパン／被災地NGO協働センター／百年計画／プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社／プロボノ消防志／真備町写真洗浄@あらいぐま岡山／め組JAPAN／ヤワー／有人家／横浜商業高校／ライオンズクラブ／レスキューアシスト／レスキューストックヤード／早稲田大学DOORS-日越交流プロジェクト／ADRA JAPAN／AGF／APAD／BEAU PAYSAGE／BIG UP 大阪／Borderless Fire／Choose Life Project／DRT Japan／DRT JAPAN／FUSSA株式会社／IKEA／IT DART／JVOAD食べる支援プロジェクト／JVOAD避難生活改善に関する専門委員会／Noblesse Oblige C&M／OPEN JAPAN／READYFOR／Revive／TIGRATO／TMコミュニケーションサービス／UDN SPORTS／Wisnettacフーズ



ヤフーネット募金



Benevity



READYFOR

活動地域でのご協力

アーキレスキュー人吉球磨／アパッチ／石巻市社会福祉協議会／いわき市／いわき市社会福祉協議会／いわき市商工会議所／榮立寺／おおいたNPOデザインセンター／大分県社会福祉協議会／大牟田市社会福祉協議会／岡田地区社会福祉協議会／岡田地区まちづくり推進協議会／岡山NPOセンター／岡山マインド「こころ」／お互いさまびらぼ／鴨川市社会福祉協議会／川辺地区社会福祉協議会／川辺地区まちづくり推進協議会／キャンパス熊本／九州看護福祉大 (おれんじびーす)／九州ルーテル学院大学／銀南復興アクセラレーション／銀南町／銀南町社会福祉協議会／銀南ロータリー有志ボランティア／球磨村／球磨村社会福祉協議会／熊本学園大学／熊本県／熊本県介護福祉士会／熊本県球磨地域振興局／熊本県高齢者支援センター／熊本県歯科衛生士会／熊本県社会福祉士会／くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD)／熊本大学／くまもと友教の会／熊本YMCA／熊本YMCA学園／倉敷市／倉敷市立岡田小学校／倉敷市社会福祉協議会／倉敷市立二万小学校／グリーンコープ生活協同組合くまもと／グリーンコープ生活ふくおか／呉妹地区社会福祉協議会／呉妹地区まちづくり推進協議会／九重町／金光教人吉教会／災害支援団Gorilla／災害支援ネットワークIwaki (DNSI)／災害支援ネットワークおかやま／災害支援ふくおか広域ネットワーク／ザ・ピープル／支援の「わ」／生活協同組合くまもと／館山市社会福祉協議会／千葉南部災害支援センター／千葉ボラサポート／鶴の恩返し／にしはらたんぼハウス／日本赤十字熊本健康管理センター／日本赤十字社岡山県支部／服部地区社会福祉協議会／服部地区まちづくり推進協議会／浜〇カフェ／日田市社会福祉協議会／人吉市／人吉市災害救援ボランティアやませみ／人吉市社会福祉協議会／タナン青年連盟／街づくりまんぼう／真備連絡会／南房総市社会福祉協議会／宮城県社会福祉協議会／モーリシャス環境保護・保全機構 (EPCO)／モーリシャス野生生物基金 (MWF)／箭田地区社会福祉協議会／箭田地区まちづくり推進協議会／山鹿地区薬剤師会／山元町／山元町社会福祉協議会／由布市／リエラ／リバイブくまもと／Aコープくま／BULBY／Jforest 球磨村森林組合／OPEN JAPAN／Teco／YNF

2020年度財務諸表

貸借対照表		正味財産増減計算書	
【資産の部】		経常収益 合計	174,693,537
現金預金	109,609,194	寄付金収入	29,895,894
未収入金	10,120,363	助成金収入	113,423,390
棚卸資産	163,246	サポート会員収入	899,560
前払費用	252,454	その他収入	30,474,693
立替金	12,708		
仮払金	979,965	経常費用 合計	172,560,286
流動資産合計	121,137,930	事業費 計	170,088,791
資産合計	122,011,874	管理費 計	2,471,495
【負債の部】			
未払金	4,512,648	当期経常増減額	2,133,251
未払費用	1,313,452	法人税	70,000
前受金	26,961,385	正味財産増減額	2,063,251
預り金	456,444		
借受金	28,280	正味財産期首残高	86,606,414
未払法人税等	70,000	正味財産期末残高	88,669,665
流動負債合計	33,342,209		

※財務諸表の詳細は、公式HPに公開しています。

正味財産合計 88,669,665

PEACE BOAT GROUP



ピースボート災害支援センター
代表理事
山本 隆

2020年、世界に広がった新型コロナウイルス感染症の中で、懸念していた自然災害が発生しました。人と人の距離を隔てしまうコロナ禍で、被災地の支援活動も難しいチャレンジに直面しました。大規模な水害を受けた地域の避難所運営支援では、避難者や自治体職員の皆様のご協力のもと、なんとか感染者を出さずに終えることができました。また、岡山、福島、千葉などの被災地では、緊急支援に限らず、地域の方たちと共にコミュニティを育てる長期的な取り組みを行えるようになってきました。

残念ながら新型コロナが収束するには、まだ時間がかかるかもしれません。今回得たコロナ禍の災害支援の知見は、今後の支援活動にも活かしていきます。皆様のご支援、ご協力に心より感謝いたします。

国際NGO ピースボート

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに100回以上の航海を行ってきました。世界200以上の国と地域を巡り、のべ8万人以上の方々が参加しています。2016年には、国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」の公式キャンペーン船として認定されました。

WEB <https://peaceboat.org/>

※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

一般社団法人 ピースボート災害支援センター

ピースボート災害支援センター (PBV) は、東日本大震災を受けて2011年4月に設立された一般社団法人です。「国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる」という国際NGOピースボートの想いを受け継いで、「国内外の災害支援」、「防災・減災の取り組み」、「東北への支援」を中心に活動を行っています。2019年10月1日をもって当団体の名称を「一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター」から「一般社団法人 ピースボート災害支援センター」に変更いたしました。



PBVを紹介する
1 分間の動画ができました!



JOIN US

すべての人々がお互いに助け合える社会へ、皆さまのご支援をお願いします。

ピースボート災害支援センターの活動は、皆さまのご支援で支えられています。

皆さまからお預かりした寄付金・募金は被災者・被災地の支援活動や防災・減災教育などの活動費として大切に使用させていただきます。

最も寄付を必要としている課題

緊急支援

災害発生時に、いち早く被災者の支援活動を開始するための支援金

現状は災害が発生してから、社会的注目が集まり、寄付行為が行なわれます。事前の備えとして、災害時に活用できる準備金があれば、より円滑に早く、現地調査・支援活動を開始できます。まさに被災者の困りごとに応じて、必要な支援活動を展開するための資金になります。



サポーターになって応援する

新設しました! お互いさまサポーター

【サポータープラン】月額1,000円／3,000円／10,000円（お支払いはクレジットカード決済となります。）

※引き落とし日は、1回目の決済日は申込当日、2回目決済日は申込翌月1日、翌月以降は毎月1日に自動引き落としさせていただきます。

【会員特典】

最新の活動成果をお伝えします。定期的なメールマガジンやニュースレターをお届けします。年に一度、年次活動報告書や活動報告会で活動の報告をお伝えします。PBVの実施する研修などにサポーター割引を使用できます。

詳細はこちらから →

https://pbv.or.jp/monthly_supporter/



自由な金額の寄付で応援する

今回のみ寄付

定額・連続ではない、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード決済からお選びいただけます。

詳細はこちらから →

<https://pbv.or.jp/donate/donate>



郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841（※下6桁は右ツメ）
口座名：社）ピースボート災害支援センター

ゆうちょ銀行

ゼロイチキュー店（019店）当座 0488841
社）ピースボート災害支援センター

その他取引先銀行

三菱UFJ銀行、みずほ銀行

ピースボート災害支援センターは、世界的なCSRプラットフォームサイト「Benevity」に登録されています。法人や社員からのご寄付の方法としてご活用いただけます。Benevityでは、PBVの活動全体を支援する寄付のほか、個別の災害支援プロジェクトを指定してご寄付いただくことも可能です。お勤め先企業の社会貢献活動の一環として、是非お役立てください。



詳細はこちらから →

<https://benevity.com/>



2020年度 活動報告

発行：一般社団法人 ピースボート災害支援センター

発行日：2021年9月15日

編集：堀場万生、小林深香、上島安裕

デザイン：森大樹

写真：Ueno Yoshinori, Nakamura Mitsutoshi, Suzuki Shoich

Social Good Photography, Inc., MWF

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL：03-3363-7967

FAX：03-3362-6073

E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp

URL：https://pbv.or.jp/

